

地域との協調・コミュニケーション

8

8.1 国民運動と県民運動への参加

(1) 環境に関する国民運動への賛同

本学は、「COOL CHOICE」に賛同（2018.6.15）します（図 8-1）。

国民運動「COOL CHOICE」とは、2030 年度に温室効果ガスの排出量を 2013 年度比で 46 %削減する目標達成のため、省エネ・低炭素型の商品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化防止に資する「賢い選択」を推進する取り組みを言います。

具体的な取り組みとしては、クールビズ、ウオームビズ、節電アクション、エコドライブ、スマートムーブなどが掲げられています。

また、最近では「デコ活（脱炭素に繋がる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」も展開されて、本学でも環境省「デコ活 NEWS」による啓発活動や地方自治体による「デコ活」への参加を推進しています。

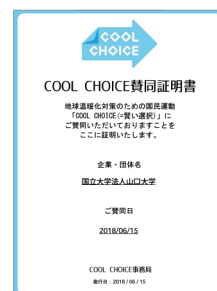


図 8-1 COOL CHOICE 賛同証明書

(2) 「ぶちエコやまぐち県民運動」の取り組み宣言

山口県では、「ぶちエコやまぐち」を合言葉に県民運動の取り組みを行う事業所を募集され、クールビズ・ウオームビズ・エコドライブ、緑のカーテン、ノーマイカー運動、エコ活動（マイバック、ゴミの持ち帰り、環境美化活動）などが掲げられています。

本学では、「ぶちエコやまぐち」宣言書を提出（2018.7.31）し、地域の一事業者としての責務を果たすとともに、本学環境目標と連動した活動を推進しています。

山口県 URL <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/buchieco/>



(3) ノーマイカー運動

ノーマイカー運動は、学内全教職員を対象として、CO₂ 削減による地球温暖化防止に貢献するとともに、環境保全意識の向上を図るものとして、2009 年度から活動を開始し、今回で 16 年目の活動となります。

報告期間中は、山口県 CO₂ 削減県民運動に準じて環境月間の 6 月と地球温暖化防止月間の 12 月（第 1・3 金曜日）、10 月（第 3 金曜日）の計 5 日間で実施しました（図 8-2）。



図 8-2 ノーマイカー運動

(4) 公用車から始まるエコドライブの推進

環境省では、移動に伴う温室効果ガス排出量が生活全体の約 4 分の 1 を占めると言われています。

本学では、公用車を計 34 台保有しており、各自動車へ「エコドライブ 10 のすすめ」の掲示を実施するとともに、買替時には低公害車への更新を推進しています（図 8-3）。

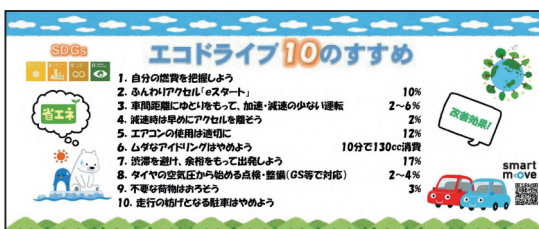


図 8-3 エコドライブ 10 のすすめ

COMMUNITY

8.2 環境美化活動

（１）キャンパスクリーン作戦

キャンパスクリーン作戦は、教職員・学生から参加者を募り、教育環境の維持・保全、環境保全意識の向上、地域コミュニケーションの促進を目的として、**各地区の除草・ゴミ拾い・池の清掃・放置自転車の整理等**を行いました（図 8-4）。

なお、各キャンパスでは次のとおり開催しました。

吉田キャンパス（2024.6.17-21、10.21-25）

小串キャンパス（2024.6.17・19-21、10.28-31）

常盤キャンパス（2024.6.25、11.6）



図 8-4 常盤キャンパスの池の清掃

（２）植栽の維持管理活動

人事課業務支援室では、吉田キャンパスの**清掃、花壇管理、学内連携業務**など多様な場面で活動しています（図 8-5）。

施設整備課環境整備班では、吉田キャンパスの環境美化を推進するため、**植木剪定、芝生管理、植え込みや駐車場の除草、植物の病害虫駆除**など、業務支援室と連携して植栽の維持管理を行います。

吉田キャンパス正門東にある蓮池や桜は、**美しい花の咲き誇る地域の憩いの場の復活**を願って対策を進めています。報告対象期間中は、猛暑や水不足などの障害がありました。報告対象期間中は、**蓮池の土壌改良や桜への施肥**を実施し、順調な生長が見られるようになりました（図 8-6）。



図 8-5 猛暑に負けない花壇の維持

（３）環境美化活動 ～花の苗の育成～ 附属幼稚園

本園では、**PTA 活動で年に 2 回、花の植え替え**を行います。また、ボランティアによる落ち葉掃きやピーマン Jr.（お父さんたち）による草刈り、全保護者による 2 学期初めの除草作業や研究会前の大掃除などの活動も行っています。このような活動により、**自然豊かな園内の環境**が美しく保たれています。保護者の方々は、**園のため、子どもたちのため**にと、花の種類や色を考えながらプランターに花を植えてくださっています（図 8-7）。保護者の姿に気が付いた子どもたちが集まって、保護者に植え方を教えてもらいながら一緒に花を植えたり（図 8-8）、プランターを砂場用の台車に乗せて運んだりする姿が見られました。「きれいに咲くといいね」「お母さんたちありがとう」という子どもたちの声が聞こえてきました。美化活動の後には、子どもたちも遊びの中で保護者と同じように花に興味をもち、水をあげたり、花殻を集めておままごとや色水に使ったりするなど、保護者の姿を通して、**子どもたちも環境美化を身近に感じる**ようになっています。保護者の協力を得ながら、この活動をこれからも続けていけたらと思っています。



図 8-6 蓮の花の開花



図 8-7 保護者による花の植え替え



図 8-8 園児による手伝いの様子





図 8-9 集合写真（共育の丘モニュメント「Gravitation」）

（4）『共育の丘』～奉仕の森 活動～

「地元との共生」として、本学の里山の環境緑化を推進する『共育の丘』～奉仕の森活動～（2024.12.14）が行われました。

この奉仕活動は、山口中央ライオンズクラブからの申し出により始まったもので、13 回目となった今年は、「山口中央ライオンズクラブ」と「おごりウィークエンドアドベンチャー（あどべん）」の子どもたちやスタッフ、山口農業高校の生徒、山大学生が活動に加わって、総勢約 120 名が参加しました（図 8-9）。



図 8-10 美祿市別府地域で実施した野外でのガイド勉強会

山口大学では、外部機関との連携を強化し、教育・研究・地域貢献活動及び地域の活性化を促進するため、外部機関より資金等を受け入れて組織（講座）を設置する「社会連携講座制度」を 2018 年度より設けています。

地域未来創生センターに 2020 年度より設置している「美祿・萩ジオパーク推進講座」では、美祿市・萩市と協働で、持続可能な社会を実現するとともに、地域の活性化及び人材育成等の地方創生に資することを目的に、Mine 秋吉台ジオパーク（2015 年日本ジオパーク認定）地域及び萩ジオパーク（2018 年同認定）地域のジオパーク活動を推進しています。

Mine 秋吉台ジオパークは、ユネスコからの世界ジオパーク認定を目指しており、同講座では、日本ジオパーク委員会の現地調査対応、受審支援等を脇田教授（特命）が行い、同ジオパークの国内推薦決定（2024 年 10 月 9 日）に大きく寄与しました。

その他、2024 年度には、Mine 秋吉台ジオパークフェスティバル（同年 11 月 4 日開催）でのユニバーサルツーリズムイベントの実施、萩ジオパークフェア 2025（2025 年 3 月 9 日開催）での運営協力、山口大学秋吉台アカデミックセンター活動報告会（同年 3 月 22 日開催）実施、萩ジオパーク推進協議会顧問としての同ジオパークの活動支援、日本ジオパークネットワーク全国大会への参加等を同講座の脇田教授（特命）が行い、両地域のジオパーク活動を推進しました（図 8-10・図 8-11）。

地域未来創生センターでは、2025 年度も引き続き両ジオパークの活動を推進し、地方創生に寄与してまいります。



図 8-11 萩ジオパークフェア 2025



地域未来創生センター
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/ext/index.html>

8.3 地域連携に 関する取組 （社会連携講座）



(1) ヤギ草プロジェクト 草をたくさん調べ隊

共同獣医学部 獣医学科 西田 照

おもしろプロジェクトの一環として、私たちは草を美味しく食べてくれるヤギさんに山口大学の除草を手伝ってもらうプロジェクトを開始しました。

2023年度の活動では、大学内の有毒植物や動物が中毒を起こす植物について調べ、草図鑑の作製を行いました(図8-12)。

その知識を活かし、2024年度は実際に山口大学農学部附属農場の草地の除草を行いました。

夏になると元気に伸びてくる草。頑張って抜こうとすれば労力を必要としますし、除草のために草刈り機を使えば燃料が必要になります。

本来は可燃物として捨てられてしまう草ですが、こうしたヤギ除草(図8-13)ではヤギさんの栄養になっています。

これまでは山口大学附属農場のみでの活動でしたが、今後はキャンパス内の他の場所にも活動の場所を広げて、ヤギさんが美味しそうに草を食べている姿から皆さんへの癒しの提供や動植物と自然への関心を持って頂く切掛けにしたいと考えています。



図8-12 草図鑑の完成



図8-13 除草を手伝ってくれたヤギさん

(2) 今あるものを長く大切に。

MAISON YMG

工学部 循環環境工学科 塩田 郁哉

私たち MAISON YMG は、「購買意識の改善」をテーマに、不要になった衣類の回収・販売活動を実施しました。きっかけは、循環環境工学科 樋口教授の講義で、山口県産業廃棄物協会の方と共に衣類廃棄の問題を学んだことです。深刻な現状に危機感を抱き、「自分たちにできることはないか」と考え、本活動を立ち上げました。

フジグラン宇部様での古着回収イベント(図8-14)、山口大学姫山祭・ときわ公園様でのフリーマーケットを通じて、多くの衣類を回収・販売しました。無料ではなくあえて安価で販売することで、簡単に捨てず長く大切に使うことを目指しました。また、SNSを活用し、イベント告知や活動の様子を発信しました。

売残った衣類は川野商店様に買い取っていただき、工業用ウエスへの再生や東南アジアへの輸送(リユース目的)を行っていただく予定です(図8-15)。さらに、活動の収益は全額を宇部市に寄付し、子ども医療等の支援に役立てていただきます。

この取り組みが、購買意識を見直すきっかけになることを願っています。多くの方々のご協力に感謝し、今後も持続可能な社会の実現に向けて活動を続けていきます。



図8-14 フジグラン宇部様での回収イベントの開催



図8-15 川野商店様への古着引き渡し

8.4 学生自主活動による取組

